

ご自由にお持ちください

1



### 院長 メッセージ

広報誌リニューアル第1号をお届けします。右に開くと中日新聞LINKEDとのコラボレーション企画、左に開くと当院の多様な情報を掲載した工夫を凝らした頁展開です。外来担当医表、公開講座・患者教室のご案内は別途発行いたします。また隔月発行から季刊発行へと変更しますが、これまで以上に充実した編集に努めます。ご期待ください。

### SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクド」  
**LINKED**  
plus+  
病院を  
知ろう

## 地域と病院と患者さんと家族。 チームで慢性腎臓病に挑む。 それが私たちのスタイル。

腎臓内科

### CONTENTS

- 1 新年のご挨拶
- 2 連携医紹介
- 3 安城更生のCURE
- 4 安城更生のCARE
- 5 NEWS&TOPICS

# 安城更生病院の 発展的再構築を期して

病院長 浦田士郎



明けましておめでとうございます。

平成から令和の御代に移り変わり、また新たな年を迎えました。昨年のラグビーW杯では、日本代表チームが桜のジャージで勝ち進みONE TEAM/一心桜体(一心同体)の流行語が生まれました。いよいよ今年は1964年以来となる東京オリンピックの開催年です。五輪には相互連帯の意味も込められていますので、令和時代の東京五輪開催によって、**協同と連帯の精神**が世に溢れることを願います。

## 創立85周年・

### 私たちの3つの役割と4つの柱

1935年は、その5年後の五輪開催地をめぐって、世界各国9都市とともに当時の東京市が立候補し、招致活動が繰り広げられた年でした。当院は同年の3月に誕生しました。現在、安城市図書館情報館アンフォーレを核に、近代的な景観となった御幸本町の地において、病床数45床、職員数40名の「更生病院」として開院して以来、67年間にわたって増改築を繰り返しながら成長を続けました。そして2002年5月現在地へ全面移転する際、安城更生病院と改称し、急性期医療の充実を基本方針に掲げて邁進しております。これもひとえに地域の皆さまから多大なご支援を頂いたお陰です。改めて感謝申し上げます。

現在の当院は、**地域中核病院・安城市の市民病院・医療人財を育成する教育病院**の3つの役割を自覚しています。とりわけ人口110万を超える西三河南部地域を視野に入れて、高度急性期医療を実践する病院としては、**救命救急医療・がん医療・周産期医療・災害医療**の4領域を柱とし、それぞれ国・県からセンター病院・拠点病院の指定を頂いており、こうした当院の役割を果たすべく、1,825名の全職員は医療人としての志を持って努力を続けてまいります。

## 安城更生病院の発展的再構築

急速に少子高齢化が進む我が国において、人口動態推計によれば、すでに多くの地域で医療需要が減少をはじめているなか、当西三河地域は2040年頃の頂点にむかって、現在よりもさらに医療への要請が増大を続ける一方、その受け皿となるべき病床や人員など医療資源が不足する、全国的にも最も厳しい地域と見なされております。また、科学技術の進歩を反映して、高度な診断装置や革新的な治療機器が次々に登場して、多くの恩恵がもたらされつつあり、医療現場への積極的導入と活用が期待されております。

病院の機能は、「人財」と「施設・設備」とが統合されてはじめて発揮されます。私たちは、この地域の医療需要の頂点にむかって、今後20年は続いてゆく険しい坂道とその先を見据えたとき、安城更生病院が自らの使命を果たしながら力強く前進し続けるには、移転から僅か18年とはいえ、既に狹隘化が目立つ現在の施設のままでは限界があると考えてきました。その解決策として、新棟を建設して、現在の本館と連結した一体的な整備を行うことで、病院全体の機能を強化する**発展的再構築**と銘打った施設整備計画を着想し、5年間の歳月をかけて検討を続けてまいりました。当初の夢想は、構想から計画へ、そして達成すべき目標となり、いよいよ昨年11月25日に起工式を挙行し、工事を開始しております。今回の施設整備では、がん治療に対する2種類の最新放射線治療装置(トモセラピー・サイバーナイフ)を配備した**高精度放射線治療棟**と、高度急性期医療を担う6階建ての**新棟**を建設してまいります。新棟には循環器センター・血液腫瘍内科病棟・通院治療センター・予防医療センター等を配置します。新棟完成後には現在の本

館の改修を行って、手術センター拡張・外科系集中治療センター新設・入退院支援センター新設・歯科口腔外科拡充などを計画しております。レストランや売店も拡張し装いを一新します。こうした施設整備はいわば舞台づくりであり、同時に、その舞台で活躍すべき人財育成・病院組織運営をさらに強化することによって、安城更生病院の機能革新を目指しております。完成時期は、高精度放射線治療棟が2021年5月、新棟は2021年11月、本館改修が2022年6月の予定です。新しい安城更生病院の姿にご期待ください。

## 叡智を結集して

当院は、世界大恐慌の波及による農業恐慌で疲弊していた1935年当時の、いわば**地域復興運動**としての「農山漁村経済更生運動」から「甦り」(よみがえり)をあらわす二文字を病院名に冠し、「健康を離れて経済的自立も幸福もない」ゆえに「組合病院を設けてすぐれた近代的医療サービスをなし」「自らの健康は自らの手で守る」との百年の大計をもって、地域の先人達の手によって創設されました。誕生から今日に至る85年間、病院モットーとして、**全職員が叡智を結集して**歩んでまいりました。これからも私たちは、先人達から託された歴史的使命感と未来指向の視点とをあわせもちながら、この地域の医療・介護需要が頂点となる2040年とその先を見据え、**地域全体の叡智を結集して**前進してまいります。**地域の医療を担い守る気概**をもって挑戦を続ける安城更生病院へ、皆さまの倍旧のご理解とご支援をお願い申し上げます。

末筆となりましたが、本年も皆さまにとって幸多い年でありますよう御祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

# 連携医紹介

安城更生病院は、地域医療支援病院として、地域の診療所と連携して地域の医療を守っています。診療所は、日常の健康管理やちょっとした体調の変化などを気軽に相談でき、皆さんにとって最も身近な主治医です。

## 森内科クリニック

呼吸器とアレルギーの専門医。慢性疾患、急性疾患、そして禁煙治療にも力を注ぎます。

森内科クリニックは、2014年4月に先代より引き継ぎ、西尾市寺津町に開院。院長は名古屋医療センター（旧 国立名古屋病院）で研修し、一宮市民病院、安城更生病院、西尾市民病院で内科医としての研鑽を積んできました。現在は、気管支喘息、アレルギー性鼻炎や、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患をはじめ、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの慢性疾患、感冒、急性胃腸炎などの急性疾患の診療を行っています。また、勤務医時代より、喫煙による健康障害に苦しむ方々を診療し、禁煙の必要性を痛感。禁煙治療にも力を入れています。今後も安城更生病院としっかり連携し、かかりつけ医として信頼されるクリニックとなるよう日々努力して参ります。



院長 森 互希

西尾市寺津町白山68-1（寺津中学校正門より西へすぐ）  
TEL 0563-59-0700 <https://www.morinaikaclinic.com/>

診療科目 内科／呼吸器内科／アレルギー科  
診療日時 午前 9:00～12:00 午後 4:00～7:00  
休診日 水曜・土曜午後／日曜／祝日  
WEB予約 <https://mori.mdja.jp/>

## リョウこどもとアレルギークリニック

小児科・小児アレルギーの専門医として、お子さまの笑顔と健やかな成長を支えます。

私は医師として、刈谷豊田総合病院で4年間勤務、その後、ばんたね病院で日本アレルギー学会認定専門医を取得しました。当院の開院は2011年。専門医としてきめ細かい一般小児科・小児アレルギーの診断・治療を心がけています。めざすのは、お子さまが怖がらない、保護者の方々がいろいろなことを相談できるなど、地域から頼りにされるクリニックです。スタッフ一同、協力して診療を行っています。刈谷豊田総合病院勤務時には、救急外来部長の久保貞祐先生に医師・小児科としての基本を学び、血液疾患については、副院長の宮島雄二先生に多くの患者さんの相談をさせていただきました。これからも安城更生病院との連携を深め、地域の皆さまの健康維持に役立てるよう、精進を重ねていきます。



院長 小松原 亮

安城市姫小川町遠見塚133-22  
TEL 0566-99-4700  
<http://www.ryo-kodomo.com/>

診療科目 小児科／アレルギー科  
診療日時 午前 9:00～12:00 午後 4:00～6:30  
休診日 木曜午後／土曜午後／日曜／祝日



# 診療機能の ご紹介



今回のテーマ

## 腎代替療法

### 01 血液透析、腹膜透析、腎臓移植。 3種類の腎代替療法があります。

慢性腎臓病では、進行性の腎機能低下によって腎機能が正常の15%以下となると、血液透析か腹膜透析、または腎臓移植が必要となります。血液透析は、血液の体外循環により人工腎臓に血液を通し、尿毒素を除去する療法。腕に特殊な血管(透析用シャント)が必要であり、当院ではその外科的造設など、血液透析実施の導入を担います。また、腹膜透析は、自分の腹膜を使って、尿毒素の除去を行う療法。カテーテルの腹膜内への埋め込み手術をはじめ、腹膜透析は基本的に当院での実施・管理となります。腹膜透析においては、週に1度程度、血液透析を加え、透析効率を十分に確保する〈ハイブリッド型腹膜透析〉もあります。腎機能の慢性低下を抑えることができるとともに、ご本人が望む生活の質を維持する面で有用性があります。そして、腎臓移植は、当院では行っていませんが、名古屋大学医学部附属病院や名古屋第二赤十字病院と連携体制にあり、これまで何人の方が手術を受けています。両病院とは、それぞれ合同の症例検討会を行い、そこでの知見、資料などを他の患者さんに紹介するなど、治療の選択肢を広げることへ繋いでいます。



### 02 データ通信機能を有した 腹膜透析装置を試験的に導入。

腹膜透析において、当院は、就寝時に腹膜透析液を交換する、新たな自動腹膜灌流用装置を導入しています。これは、患者さんが安心して在宅治療を行えるようサポート機能を搭載した機器ですが、特筆すべきは、データ通信機能を有していること。当院の医師が患者さんの治療データにアクセスし、治療効果をモニタリング、設定変更も可能であり、遠隔から患者さんの治療状況を管理することができます。もちろん、個人に関するデータのため、セキュリティ管理が不可欠ですが、一定のルールに基づいた運用を図ることで、その管理も万全の体制になるものと考えています。将来的には、診療所の医師と一緒に治療管理を行うといった期待も広がっています。

### 地域全体の健康水準を上げるための下支えをする診療科をめざします。

当院では、腎疾患を持つ患者さんの手術が増えています。そうした方々から、「安城更生病院には腎臓内科があるから安心」と、思っただけの診療科でありたいですね。そのためには私たちスタッフのレベルアップが不可欠です。医師については、果敢に腎臓内科専門医をめざす若手医師が増えていますし、メディカルスタッフも腎臓病の専門資格に挑戦する人が増えています。そうしたスタッフの総合力をさらに高めること。それが良い医療に繋がり、地域の方々の幸福感にも繋がると考えます。

腎臓内科 代表部長 森永貴理

## DOCTOR'S MESSAGE



# 支援機能の ご紹介



今回のテーマ

## 慢性腎臓病のチームケア

### 01 家に帰ってからも続けられる薬物療法をめざします。

慢性腎臓病の治療においては、降圧薬などの薬を、長期間(場合によっては一生涯)正しく服用し続けることが大切です。私たち薬剤師は、患者さんが入院中だけでなく自宅でもきちんと薬を飲み続けられるよう、支援を行っています。そのなかでも特に重視するのは次の2つです。まずは、薬の説明。自身で正しく服薬を管理するには、その薬を飲む理由を正確に理解することが大切です。私たちは、薬の必要性や効果をできるだけわかりやすく説明し、服薬の動機づけを行います。2つ目は、用法等の改善。服薬が重荷になると、継続は難しくなります。そのため、複数の薬を一包化したり、服用時間を揃えたりすることで、負担の少ない薬物療法をめざします。



薬剤師 森 巧一

### 02 一人ひとりに合った栄養指導を行います。

塩分制限などの食事療法は慢性腎臓病をコントロールする上で必要不可欠なものです。しかし、急な食生活の見直しは簡単ではありませんし、患者さんによって状態や生活環境もさまざまです。そのため私たち管理栄養士は、医師や看護師などと常に情報交換しつつ、患者さんとじっくり話し合いながら、一人ひとりに合った無理のない食事療法をめざしています。例えば、外食中心の方であれば、汁物などを控えることやお惣菜の活用を提案しますし、既婚男性については奥様にレシピをお渡しすることもあります。また、栄養状態の悪い高齢患者さんに対しては、まずはエネルギーを摂取するよう促すなど、個々の患者さんに最適な栄養指導を心がけています。



管理栄養士 増田明啓

### 03 継続的なケアをコーディネートします。

透析に代表されるように、慢性腎臓病の治療では、患者さんの人生に大きな変化が求められますし、厳しい自己管理も必要になります。そのため、私たち医療職もただ治療すれば良いというものではなく、継続的に患者さんの身体や精神の状態を確認し、ケアしていくことが大切です。そして看護師は、そのコーディネーターとしての役割を担う職種です。私たちは、病棟や外来で、常に患者さんの状態を観察し、希望や悩みなどにも耳を傾けます。そして、その情報に基づいて適切な看護を提供するとともに、必要な場合には医師・薬剤師・管理栄養士といった専門職に繋ぎ、多職種が一体となって患者さんを支え続けられるよう調整を行っています。



看護師 平岩加苗

SPECIAL REPORT

# 地域と病院と患者さんと家族。 チームで慢性腎臓病に挑む。 それが私たちのスタイル。

## 腎臓内科

高度急性期病院としての腎臓病への取り組み。  
腎臓病専門診断、透析導入、急性増悪、救急を守る。



### CHAPTER 01 病気を知る、治療法を知る。 そのための2つの教室。

2019年12月7日、安城市に住む70代の男性が、息子とともに、安城更生病院第一会議室を訪れた。会場には、すでに住民らしき人が何人も集まっている。どの顔も少し不安げだ。男性がここに来たのは、かかりつけの診療所医師から「腎機能が落ちているね」と言われ、安城更生病院腎臓内科〈慢性腎臓病教室〉への参加を勧められたからである。

午前10時きっかり教室がスタート。医師による腎臓病治療のポイントをはじめ、看護師、薬剤師、栄養士らの多職種からは、生活、薬、栄養など、腎臓病について多岐に亘る話が続いていく。どの説明もわかりやすい。心構え、日々の暮らし方など、男性は徐々に話に引き込まれるうち、予定の2時間が終了。「腎臓病のこと、きちんと知ることが大事なな。来てよかったわ」と息子に言いつつ、ゆつくりと席を立った。

〈慢性腎臓病教室〉は2007年スタート。毎年6回開催し、これまでに2200名あまりが参加している。教室開催の目的を、副院長の玉井宏史(日本腎臓学会腎臓専門医・指導医)は「腎臓病の正しい知識を持つていただくこと」だと語る。「腎臓病と聞くと、誰もがいつかは透析治療と思いきや不安が募ります。しかし、早く発見して正しい治療を進めれば、長い間、透析にはなら

### CHAPTER 02 明確な役割分担と一体化が、 地域でも院内でも実現。

慢性腎臓病は、尿検査異常や腎障害が3カ月以上続く場合と定義される。成人の8人に1人が慢性腎臓病といわれるほどの国民病であり、患者数は推定1330万人、透析患者数は33万人を超える。

安城更生病院腎臓内科では、増え続ける慢性腎臓病の重症化防止、透析導入への進行阻止を睨んで、果敢な取り組みを行ってきた。現在では西三河南部全体に及ぶ広域圏から紹介患者が集まる。

玉井は、腎臓内科の守備範囲についてこう語る。「私たちは紹介患者さんの腎臓病の診断、透析療法の導入部を受け持ち、維持透析はすべて地域の診療所をお願いしています。但し、透析患者さんの合併症治療や重篤な緊急事態に陥ったときは当科でお受けする。こうした役割分担が地域で成立しており、地域との連携のなかで当科は機能しています」。そのため診療所とは密に連携し、

ず、安定した治療もできませんし、腎機能も改善する余地があります。そのためには、腎臓病を正しく知ることが必要なんです」。

残念ながら病気がある程度進行した患者のためには、〈腎不全治療法選択教室〉を開いている。ここでは腎代替治療(血液透析、腹膜透析、腎臓移植)の実際を知るために、透析機器に触れる、看護師が患者役となった自主制作動画を見る、疑問点の説明を受けるなど、理解を進めるための工夫がいろいろだ。

玉井は語る。「腎代替療法についても、待たなして考えるのではなく、早い段階から具体的な治療法を知ることが、選択肢を広げます。患者さんとご家族が一緒に、自分たちの生活にあった治療を選択する。そうした準備が、より良い治療に結びつく」と私たちは考えます」。

### COLUMN

●腎臓は、血液中の老廃物や塩分を濾過し、尿として体外に排出する働きをする。その中心的役割を担うのが糸球体(毛細血管の塊)であり、それが何らかの原因で冒され、腎臓の働きが悪くなった状態が腎臓病である。本文で紹介している慢性腎臓病とは、尿検査異常や腎障害を示す所見や腎機能低下が、長期間に亘って続くすべての腎臓病を指し、初期の段階では自覚症状がないため、早期発見治療がかなり難しいとされている。

新たな情報や知見を提供。前述の教室を活用してもらうなど、地域の慢性腎臓病患者、透析患者を、診療所と一体化し支えている。

一体化でいうと、院内での多職種と医師との関係も特筆すべき点である。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学士らがチームを組み、透析導入患者の治療方針、転院先などを〈合同カンファレンス〉により検討を重ねる。そしてそこには担当医以外の医師も参加。高齢化に伴い、複合疾患を抱える透析患者の手術を含めた治療の検討と実施など、協力関係は固い。

患者の高齢化が進み、慢性腎臓病と合併症の治療を切り離すことはできない。「だからこそ私たちは、院内、地域の診療所とチームを組み、日常的に患者さんを支えることに尽力しています。そこに、患者さんと家族も加わっていただきたい。そうすることでこそ、真に地域が一体となった慢性腎臓病治療が実現すると考えます」と、玉井は言葉を締め括った。

### BACK STAGE

大切なのは、私たちの意識。  
他人事ではない自覚を持つ。

●新規透析患者のうち、糖尿病性腎症に起因するものは多い。2017年の日本透析医学会調査では、愛知県の新規透析患者の約44%が糖尿病性腎症によるものである。2016年には、日本医師会、日本糖尿病対策会議、厚生労働省の連携協定が結ばれ、糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定。特定健診でリスクのある人を早期に発見し、受診勧告、保健指導による生活習慣の改善、血糖管理の改善や腎症の早期発見、治療に結びつけていく。愛知県は2017年、安城市は2019年からスタートさせた。

●これは各自自治体と医師会が連携して進めるものだが、何より大切なのは住民の意識であろう。他人事とは思わず、まずは生活習慣を見直すところからでもスタートしたい。

## 安城更生病院新棟建築及び 本棟改修工事起工式に総勢86名が参加。

2019年11月25日(月)、安城更生病院2階講堂に於いて「安城更生病院新棟建築及び本棟改修工事起工式」を挙行了しました。

起工式には安城市長らを来賓に迎え、病院、工事関係者など総勢86名が参加しました。

式典では、施主、設計・施工者による玉串奉奠などの神事を行い、新棟建築及び本棟改修工事の安全を祈願しました。



### TOPICS

## 2020年4月より土曜日外来診療を 完全休診とさせていただきます。

当院ではこれまで、第1・第3土曜日の午前中に外来診療を行って参りましたが、2020年(令和2年)4月以降につきましては、土曜日の外来診療を完全休診とさせていただきますことといたしました。

患者さま、患者家族の皆さまには、大変ご不便とご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、救急医療につきましては従前どおり24時間体制で対応させていただきます。

今後も、救急体制、病院機能のより一層の充実に努め、地域の皆さまに信頼される病院づくりをめざして参ります。何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

曜日	変更前 2020年3月末まで	変更後 2020年4月以降
月曜日 ～ 金曜日	初診 8:00～11:00 再診 〈予約有〉 8:00～16:30 〈予約無〉 8:00～11:00	初診 8:00～11:00 再診 〈予約有〉 8:00～16:30 〈予約無〉 8:00～11:00
土曜日 (第1・第3)	初診 8:00～11:00 再診 〈予約有〉 8:00～12:00 〈予約無〉 8:00～11:00	一般外来休診

健康管理センターにつきましては、2020年5月の第3土曜日から翌年2月まで、第1・第3土曜日の午前中稼働を継続いたします。

